

行政視察報告書

令和5年2月14日

前橋市議会議長 様

会派：市民フォーラム

議員 角田 修一

議員 三森 和也

議員 大澤 智之

記

1 期 日

令和5年2月1日（水）～ 2月3日（金）

2 視 察 先

- ・愛知県 名古屋市（人口229.5万人）・大阪府 泉大津市（人口7.3万人）・愛知県 豊田市（人口41.8万人）

3 視察事項

- ・名古屋市 「（不登校対策）校内フリースクール設置について」
 1. 設置の経緯及び現状
 2. 令和4年度 of 取組及び検証について
- ・泉大津市 「新図書館整備事業について」
 1. 市民参加イベント開催内容
 2. 新図書館整備の概要及び課題
 3. 今後の取組について
- ・豊田市 (1) 「衛星画像の解析による水道管漏水箇所の検知について」
 1. 調査方法及びメリット
 2. 今後の取組(2) 「とよたエコフルタウンについて」
 1. 事業概要及び成果
 2. 今後の展望

4 視察概要

別紙のとおり

令和5年2月1日(水)13:30～名古屋市役所視察報告

報告者：市民フォーラム 角田

○視察テーマ「校内フリースクール設置」

○新しい学校づくり推進室平松室長説明

- ・新しい学校づくり推進室 令和4年度設置
- ・資料：「校内の教室以外の居場所づくり事業」A4 資料
不登校未然防止及び不登校児童生徒支援の方策（令和4年3月）
パワーポイントで説明（資料無）*終了後

○名古屋市112校の内、30校先行実施

OR2 年度不登校児数：3230人（令和元年比較：+293人）

○不登校未然防止及び不登校児童生徒支援の方策

【8つの方策】

- 1 魅力ある学校づくり
- 2 教職員の意識改革
- 3 なごや子ども応援委員会・学校と専門機関等との連携
- 4 校内の教室以外の居場所づくり
⇒令和3年度～教室に入れない児童生徒が安心して過ごすことができる教室以外の居場所づくりを進める！
- 5 訪問相談、対面指導、アウトリーチ支援
⇒全学校にスクールカウンセラー配置
- 6 子ども適応相談センターの拡充
- 7 民間団体（施設）との連携
- 8 ICTを活用した学習支援

○事業概要「校内フリースクール設置」

- ・不登校児の教育復帰を目指すものではない。
- ・専任の教員配置⇒30名(10常勤・20名非常勤)
- ・校内フリースクール設置⇒学校に自由度を当てている。
- ・教室のレイアウト⇒備品は、各学校が主体。（40万円学校に予算配布）
- ・登校については⇒子供のペースによる。
- ・学校の様子⇒温かい気持ちで対応。
- ・副次的効果⇒配布物が渡せる。
- ・子供たちの過ごし方⇒「集中タイム」と「リラックスタイム」でメリハリを付けている。壁で仕切られたスペースを設置。
- ・各学校で、バリエーションがある。

- ・ソーシャルトレーニングの実施
- ・利用状況⇒平均 10 名程度（10／30 校）
- ・学校の中で学びたい子どもたちのために、校長・PTAで協議している。
- ・児童の居場所づくりの利用状況⇒週 2 日～4 日
- ・学習について⇒民間学習プログラム導入、スタディーサプリ。
- ・校内フリースクールの工夫⇒ふれあいタイム設置、癒し系 BGM を流す等。
- ・キャリアナビゲーター配置、キャリアについて相談。
- ・生徒の声、自分自身の不安、学校に通うことにより。家族の喧嘩が少なくなった。
- ・先生:個別支援「生徒本人がいてもいいと思える場所」
- ・校内フリースクール設置により、生徒の向き合い方が柔軟となった。

●不登校児童生徒 R4.12 月末

- ・370 名 846 名 43.7%不登校生徒数に対する割合
- 中 1 109、中 2 127、中 3 134 居場所のみ 181 名

【質疑応答】

Q 登校時の対応について

入口・下駄箱をわけている。他の生徒と、空き教室も動線を変えている。

Q 不登校に原因フォロー

自己肯定感を高める、上げる。

Q 校長先生、保護者に周知しているのか

オープンにして保護者・生徒に周知している。

Q 採用人数

政令市なので、教師は名古屋市で採用。

Q 小学校 6 年生で不登校になっている場合

居場所がある安心感を伝え、登校を促している。

Q 学年の引き継ぎ

大事だと思う。小学校と連携を図っている。

Q 居場所づくりは

居場所づくり

Q 導入されてない学校は

導入に警戒していた状況もあり心配していたが、導入した学校の運用を確認し、導入していない他の学校からも設置要望があり、来年度予算要望を提出。

・小学校については、ブロック単位 262 校 ソーシャルワーカーも希望がある。

Q キャリアナビゲーターについて

⇒42 校に配置 子供たちの人生設計。社会と繋ぐ。

【キャリアナビゲーターとは】

子供達の進路や職業選びを手助けする職員で、「キャリアナビ」とも呼ばれる。名古屋市では2018年10月から市内の小・中・高校6校に試験的に配置。

Q 子供の学習計画の支援

担当先生で行っている。担任にも連携している。

Q 学校の転校について

一般的には、担任が家庭訪問。それでも、教育支援センター・居場所に通う。選択肢に学区外通学もまれにある。

Q 進路指導について

どの子に対しても、進路指導している。教室に入れただけ。

不登校でも高校の受け入れ先はある。また、通信制高校へ移る。

Q 小学校は

希望もある。厳しい状況もある。予算要求 7300 万円

Q 不登校の状況調査について

年 2 回調査

●感想

名古屋市の視察を終了し、今後の不登校対策については「教室に入れない児童生徒が安心して過ごすことができる教室以外の居場所づくり」を進める事で、学校と児童生徒の接点が広がると考えます。

各学校では、当初不安もあったとの事ですが、教室以外の居場所を設置したことにより、不登校児童も通学しており、名古屋市においては設置していない学校も拡大するとのことでした。本市においても、不登校対策として「児童生徒の居場所づくり」に取り組むべきと考えます。

また、名古屋市はキャリアナビゲーター職員を配置し、子供達の進路や職業選びを手助けしておりました。「子供たちの人生設計」「社会と繋ぐ」ことを目的に取り組むことは大切であり、本市についても配置について検討すべきと考えます。

以上

【名古屋市視察状況】



◎会派視察（報告）

記載者：大澤智之

- ・日 時 2023 年 2 月 2 日（木）10：00～11：30
- ・場 所 泉大津市立新図書館（シープラ）
- ・視察項目 新図書館整備事業について
- ・説 明 図書館長 河瀬裕子 氏、教育部参事兼生涯学習課 課長 内田輝雄 氏
生涯学習課 生涯学習推進係長 吉田侑平 氏

【概要】

延床面積：3,510.21 m²

収容冊数：開架約 15 万冊、閉架約 3 万冊

閲覧席数：500 席

貸 室：多目的室（70 席）、会議室 1（8 席）、会議室 2（6 席）

会議室 3[ティーンズ会議室]（6 席）

附帯施設：地下駐車場（共用）、建物隣に契約駐輪場

人 員：館長（生涯学習課参事、司書、任期付（5 年）職員）1 人

副館長（生涯学習課総括主査、司書、任期付（5 年）職員）2 人

職員（生涯学習課係員、司書、任期付（5 年）職員）3 人

会計年度任用職員 29 人（うち司書 4、司書補 1）

※2022 年 4 月 1 日現在

【質問】

Q：新しい図書館の「在り方」を常に模索しながら 2021 年 9 月に開館した「シープラ」ですが、開館から約 1 年が経ち、新たな課題や取組について伺う。

A：新たな取組については、学校支援サービスを始め、学校図書館とシステムを連動させ、どういう本を買うのがおすすめのなのかや、議会図書室の支援も行っている。

Q：泉大津市の新しい図書館を整備していくための設計を行うにあたり、フィールドワークを行ってきたとあったが、どの様な意見交換があったのか伺う。

A：フィールドワークについては半年に計 4 回行い、まず地域（市）のことを知ることから始まった。先人が繋いできた土地の文化や伝統を知ることによって新たな発見があった。

Q:シープラの概要説明の中に「ビジネス支援」や「医療・子育て問題」の解決とありますが、どの様に対応しているのか方法や対策について伺う。

A：課題解決として、レファレンスサービスの資格を取得（今期で 3 名）し、利用者が必要としている情報の提供や回答を行っている。

【感想】

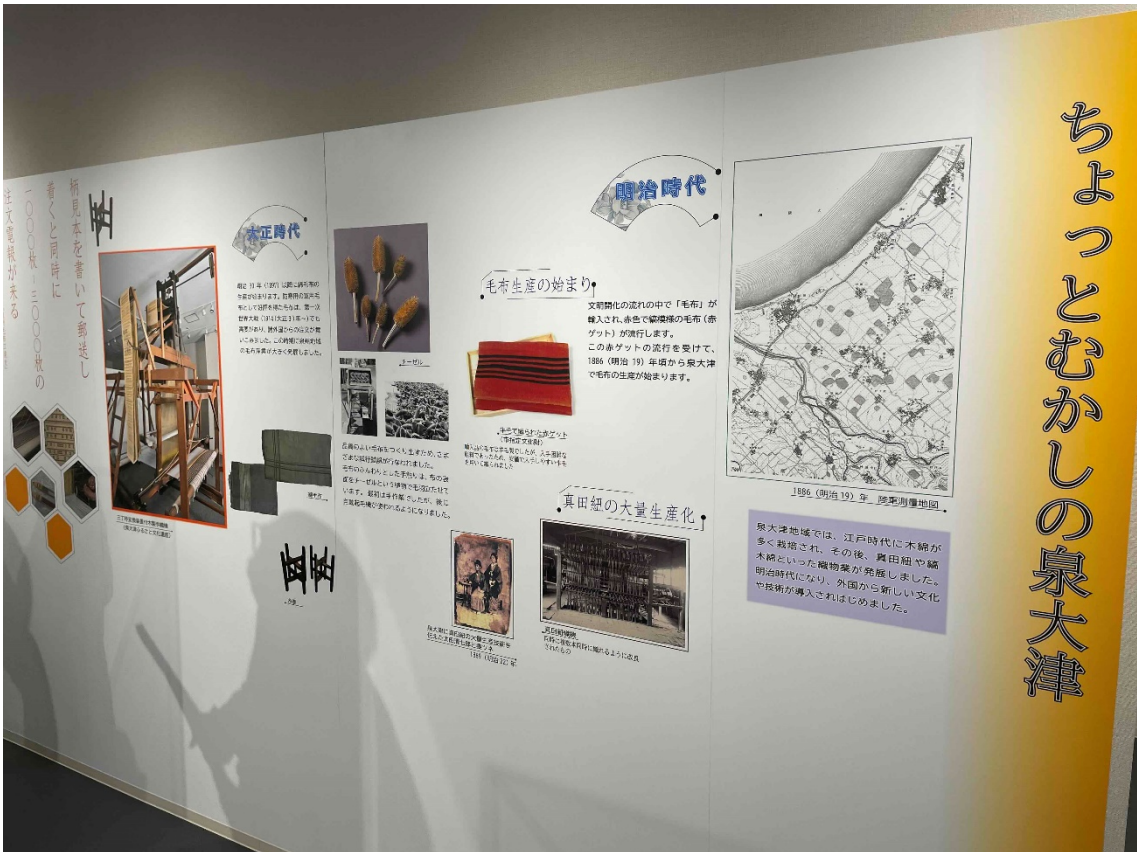
今回の泉大津市新図書館「シープラ」の視察は、従来の本を借りて返す図書館ではなく「すべての市民が新しい価値を創造する図書館」とし、学び（市民自らが地域課題を解決できる支援）、協働（多世代、多文化、各種学校、企業協働の支点）、創造（新たな価値の創造）と活動の 3 つの柱を掲げ、発信（ビジネス支援サービスの充実）、交流（多

種多様なイベントの実施)、連携(学校等連携の強化)など、サービスの3つの柱で新たな価値を全面的に出し、来客を待つ図書館ではなく、攻める図書館だと感じました。

運営に関してはほぼ直営で、1日の利用者数は約1,000人、会計年度任用職員は29名でやっており、日本全国民、誰でも利用できるということにも驚きました。

また、ビジネス支援や医療・子育て問題に関しても、レファレンスサービスを徹底しており、「お客様と向き合う時間を作る為にITを使ったオートメーション化」をしていると館長も仰っておいりました。

本市においても、現在老朽化のため、新図書館を考えていかなければならないところですが、「シープラ」を見習って前橋も付加価値の高い図書館にしていくため、この視察を関係各所へしっかりと伝えていきたいと思ひます。









行政視察報告

記入者 三森和也

1. 衛星画像の解析による水道管漏水箇所の検知について

- 日時 令和5年2月3日（金） 9時15分から10時25分
- 場所 豊田配水場 豊田市西山町5-2-8
- 説明職員 2名（豊田市上下水道局水道医事課 岡田俊樹様他1名）
- 内容 調査方法及びメリット、今後の取り組み等の聞き取り調査
別紙資料「衛星画像を活用したAI漏水調査について」にてご説明いただいた（別紙参照）
- 質問
 - Q 令和4年2月1日からの取り組みとのことあるが、費用はどのようになっているのか
 - A 実証実験のフィールドを提供している取り組みであることから無料
豊田市は企業と協定を結んでいることを踏まえ、企業は内閣府の採択を受けている
 - Q 漏水可能性区域の漏水的中精度を約3割から約6割に向上させる目標であるが、
漏水可能性区域の範囲を直径200メートルから100メートル以下に縮小できている
ことによるものなのか
 - A それが理由ではない。目標を高くしすぎたかなと思っている
（ただ、意気込みは感じた）
 - Q 地中埋設物を見つけるのにも効果があるのか
 - A ある
 - Q また、下水では発見できるのか
 - A 地下2mまでわかるので、空洞化まではわからないが、温泉が見つかった
市長からは防空壕がわからないかと言われたこともある
 - Q 今後は、調査パッケージを予算化するのか
 - A 予算は、きられて無い
 - Q 水道料金の値上げは
 - A 令和5年4月1日の値上げの予定であったが、物価高騰のため令和6年4月1日の予定
へ。
その間は、一般会計からの繰り出し

Q スマートメーターの活用は

A 輪島市では導入していて効果をあげたことを承知している

Q 漏水調査した場合としない場合での差はあるのか

A 自己保全が前提。予防保全も考えられるが、写真解析した次の日に漏水する場合もあり
有収率は計りきれない

管路の入れ替えも含め積み重ねれば良いと思うが、見えづらい。

また、人口が少ないところは、流さないと残留塩素の関係で流すこともある
人口減少の影響は大きい。空き家の予測も重要

空き家予測システムの活用を行っている。資料参照。 などの質問を行った。

○感想

わが国で最初に、取り組んだAI活用による解析で、漏水可能性区域にあたりをつけていく
取り組みの経過をお聞きし、自信を持った担当者の説明に圧倒されつつも、新たな手法につ
いて、AIと人による調査の総合的な取り組みの今後の可能性について大変有意義な視察と
なったと考えます。

今後、予算要望など様々な機会を捉えて提起等していきたいと考えます。

※ 前橋市水道局へ情報提供を2月13日行ったこともご報告いたします。

2. とよたエコフルタウンについて 現地視察

○ 日時 令和5年2月3日（金） 10時50分から11時50分

○ 場所 豊田市元城町3-11

○ 視察 現地視察（ガイドツアーによる視察）

○ 内容 事業概要及び成果、今後の展望を目的に視察を行った
スライドにより事前説明（資料参照）

豊田市は、スマートシティである。

SDGS の活動拠点として2012年に開設、2019年にリニューアルし、豊田市内の環境分の拠点としての位置づけ。ローカルな立場から環境モデル都市を目指している。

他に、社会分野として「つくラッセル」、経済分野として「ものづくり創造拠点 SENTAN」等ある。

○ 質問

Q 目指す都市像として、「みんながつながる、世界がつながる、ミライにつながる“スマートシティ”」との説明、そのため豊田市つながる社会実証推進協議会が設置されているが、参加企業の数はいくつですか。

A 90社を超えている。

Q では、どのような活動をすすめているのか

A ①トヨタ自動車の使用済みモーターの活用として、工場内の風力発電等に活用に向けた取り組み

②AISHIN 工業では、電動化の波の生き残りをかけ、ハイブリッド型のドローンの開発の取り組みで避難所での給電実験も行っている。

③コロナ禍で外食ができない飲食店が困っている状況から、デリバリーサービスのため、トヨタ自動車とタクシーが協力し小型EV車の活用でタクシードライバーが配達する取り組み

Q ゼロカーボンニュートラルの取り組み状況はどうか

A ①環境部では太陽光発電の共同購入の取り組み

中小企業の設備投資として、省エネ効果の太陽光パネルの自家発電を条件に省エネ補助金を今年度から実施している。

②ガンダムとコラボしてイベントを行った。（駐車場に車あり・写真参照）などの質問を行った。

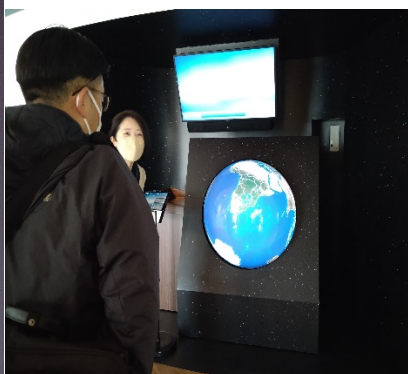
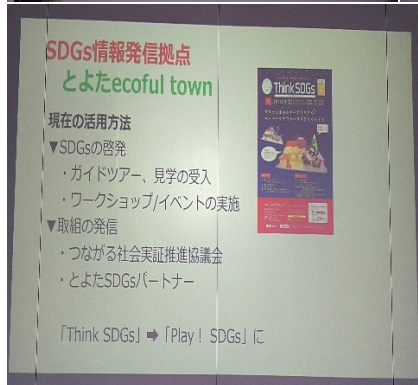
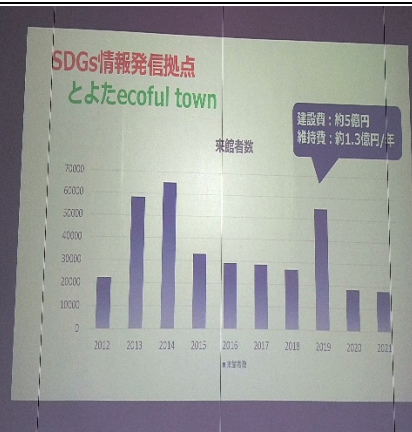
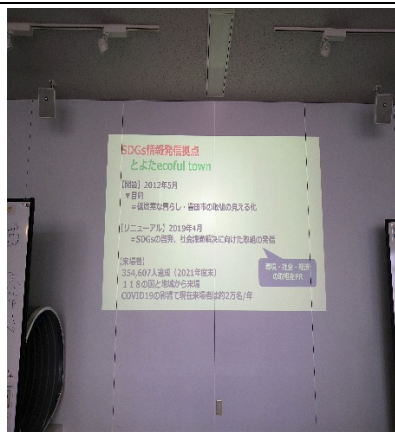
●事前説明の後、パビリオン等現地を視察。（写真参照）

（とよたマッピングビジョン・プロジェクトゾーン・水素ステーション・スマートハウスなど）

●感想

豊田市における社会的課題解決型の取り組みの一環として、SDGS の促進とあわせ地元企

業との連携のための組織をつくり、実証事件を通じた取り組みは大変参考になった。
日常的な省エネ・コロナ禍での EV 活用・災害時の給電等の準備など企業との連携。
本市での、SDGS に係る省エネ対策の取り組みをはじめ、デジタル田園都市国家構想等関係する取り組みについて、議会質問等様々な機会を通じて提起等行っていきたいと考えた。



2月3日（金） 豊田市 エコフルタウン現地視察写真